



Vol.128
2026.9



“留紺”の滑らかな体

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

* 網張の森の生き物たち *

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

動きの速い“オオヒラタシテムシ”

まとわりつくような湿気が薄れ、過ごしやすさの中に秋の気配が漂い始めた9月初旬のある日、網張薬師社前の広場でオオヒラタシテムシに出会いました。森の中で見かける機会は多いものの、とても動きが速くすぐさま落ち葉の下などに隠れてしまい撮影できないのが常でしたが、今回は比較的平坦な場所ということもあり、追いかけてみることにしました。こちらの気配を感じると、慌てふためいた様子で地面をかなりの速さで進み、体が少しでも隠れるとピタッと動きが止まり、落ち葉などを払うとまた身を隠す場所まで猛ダッシュ…。落ち葉の下から出てもらおうと体に軽く触れてみると想像以上にすべすべしていました。動き疲れたのか、姿を現したままじっとしていたので撮影しながらの観察タイムです。平たく一見真っ黒に見える体は光りの加減では、藍染でこれ以上濃くならない色名の“留紺（とまりこん）”とも言えるシックな色味、上翅の片側には各4つの縦筋があり、前胸背板と共に点刻が一面に見られ質感はまるで鉄器のようです。幼虫と成虫共に動物の死骸などを食べるなど、好印象は持たれにくい存在ですが、結果的に森の掃除役となり、森の調和を保つ一翼を担っていると改めて感じられた出会いとなりました。

What is
“Oohiratasidemusi”?

「黒に近い濃紺のシテムシ」

ハネカクシ科
体長：約 18～23mm
分布：北海道～九州

幼虫、成虫共に動物の死骸やミミズなどを食べる食肉性。越冬した成虫は春頃から姿を現し、腹部の突出したメスは土中に一つずつ卵を産む。幼虫はワラジムシのような扁平な形をしており、冬までには成虫になり越冬する。

（参考図書：「新 日本の昆虫」他）

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori

網張の モモンガ物語



協力：AMK

(網張のモモンガを見守る会)

第三話 「巣材」は入居者たちの「暮らしの記録」

雪が1.5m以上積もった2月～3月。モモンガ調査の適期がやってきました。近年は、一般の方にも参加していただき、調査を行っています。森に設置した巣箱を調べるため、スタッフは脚立を担ぎ、スノーシューで雪深い落葉広葉樹林帯を進みます。



雪に覆われた森では、普段は近づきにくい場所にも足を運ぶことができます。途中、モモンガやムササビの食痕、テンやウサギの足跡、雪上を歩くユキクワガタなどにも出会うことがあります。

やがて目的の巣箱に到着。足場を固めて脚立を固定し、雪を取り除いてから、巣箱を木に固定しているシュロ紐をほどき、慎重に雪上へ下ろします。屋根を開ける瞬間は、「もしかしてモモンガが入っているのでは？」と、いつも緊張が走ります。

巣箱に残された「巣材」は、そこを利用した生きものを知る大切な手がかりです。その結果、巣材について大きく5つの傾向に分けることができました。



1. スギの樹皮

細く裂いたスギの樹皮が巣箱いっぱいに詰め込まれている場合、モモンガが利用した可能性が高い。モモンガはスギの樹皮を細長く裂き、これを重ねたり絡ませたりして巣をつくる。樹皮の層を厚くしそこに潜り込むことで、外気の冷たさが巣の内部に伝わりにくくなり、厳冬期の保温にも役立つと考えられる。



2. 落ち葉やササの葉

落ち葉やササの葉などを組み合わせた巣材は、樹上性のヒメネズミによるものと考えられる。ヒメネズミは樹上の空間を利用して巣をつくり、植物質のさまざまな材料を巣材として利用する。巣箱からは巣材だけでなく、貯食されたヤマブドウの実や、凍結して死亡した幼体が見つかった例もあった。巣箱が単なる「ねぐら」ではなく、子育てや貯食に使うなど、ヒメネズミが生活の場として利用していたことが分かる。



3. ミズナラの樹皮とコケ

細かく裂くと繊維状になる樹皮とコケの組み合わせは、樹上性のヤマネが利用した可能性がある。ヤマネはコケや樹皮などを巧みに組み合わせ、球状に近い巣をつくる。自然巣では、外側にコケや表面の粗い樹皮などを用い、内側には細かく裂いた柔らかな樹皮を使う。巣材を調べることで、ヤマネが小さな体で材料を選び、巣を組み立てる巧みな営巣行動が見えてくる。



4. コケや獣毛

コケや獣毛など、柔らかく保温性のある材料は、シジュウカラなどの小型の野鳥が巣作りに利用する。

特に産卵・子育てに使われた巣では、卵の殻など残されていることもあった。こうした巣材や卵殻は、巣箱が実際に繁殖場所として利用されたことを示す重要な痕跡である。

5. 複数の異なる巣材 (1～4の組み合わせ)

一つの巣箱に、異なる種類の巣材が重なっていることもあった。これは、同じ巣箱を異なる生きものが時期を変えて利用した可能性を示す。

実際に、シジュウカラが繁殖に利用した巣の上に、後からモモンガがスギ樹皮などの巣材を重ねて、利用したと考えられる例も確認された。



このように、「巣材」を一つひとつ観察すると、入居者が森でさまざまな「巣材」を選び、加工し、生き抜いてきた営みを感じられます。条件の良い巣箱をめぐる利用者の交代など、さまざまなドラマも想像されます。一つの巣箱に残された小さな「巣材」から、森の生きものたちの暮らしが少しずつ見えてきました。

そして私たちは、今まさにモモンガが利用している可能性の高い巣箱に注目し、その後の様子を見守ることにしました。

次回、ついにセンサーカメラが登場！

懐かしい写真で振り返る八幡平地域 『三ッ石山荘』

岩手山から八幡平に至る裏岩手縦走コースのほぼ中間に位置する三ッ石山（標高 1,466m）は、本州で最も早く見られる真っ赤な紅葉で人気の山です。三ッ石山と大松倉山の鞍部には三ッ石避難小屋（以下、三ッ石山荘）があります。

昭和 26 年、八幡平から岩手山を結ぶ「裏岩手縦走路」が裏岩手山岳スキー協会（現：裏岩手山岳会）の尽力により、3 年もの歳月をかけて切り開かれました。網張と藤七の間には必ず避難小屋が必要であると考えられました。縦走路抜開の際にキャンプを張った場所には水場もあり、将来的に松川や滝ノ上からコースを作るにしても適地であると判断されました。

昭和 28 年、雪解けを待って着工されました。現地は国有林であり、将来的に国立公園の指定を受けようとする地域である



（初代の三ッ石山荘）

ため、小屋の材料は全て下で加工し組み立てるばかりにして荷揚げすることになりました。予算の関係で生木の丸太を使用し、また梅雨時期に重なったため、雨がしみた丸太は 1 本でも約 30 kg の重さのものもあったそうです。苗代のようにぬかるんだ道を半月がかりで網張近くまでジープで運び、そこから約 7 km の現場までは人力での運搬でした。から身で登るだけでも大変な道を、勤労奉仕の大キャラバン隊が丸太を背負い、列を成して運びました。約 1 ヶ月に及び荷揚げが完了し、大工が来て 1 週間で立派な小屋が完成しました。当時の国分謙吉岩手県知事により「三ッ石山荘」と命名されました。当時の西山村による建設で、管理は裏岩手山岳会が担いました。

昭和 40 年、二代目の三ッ石山荘が岩手県により建設されました。保護管理員制度が設けられ、以後岩手県自然公園保護管理員による管理となりました。昭和 46 年に登山者の失火で焼失しましたが昭和 47 年に再建されました。平成 16 年、現在利用されている三代目の三ッ石山荘が建てられました。近年、三ッ石山は紅葉の時期は過密になるほど人気があり、山荘も広く利用されています。また裏岩手の縦走や冬山スキーなど年間を通して利用されています。

（参考資料：「山男達が歩いて来た道」著者 長澤新一氏
八幡平地域指定 50 周年記念誌「八幡平のあゆみ」）



（三代目の三ッ石山荘）

「私と十和田八幡平国立公園」

岩手山地区パークボランティア 前川 真喜子 氏

改めて「私と十和田八幡平国立公園」というテーマで考えると、私にとって国立公園を身近に感じるきっかけは網張ビジターセンター開催のイベントに参加したことだと思います。利用しやすい料金で多様なイベントに参加できる事で国立公園エリアへ足を運び機会が増え、個人での活動も自然に増えていったと感じています。スタッフの皆さんが魅力的で網張ビジターセンターファンを自負しています。きっと多くの方がそう感じていらっしゃるのではないのでしょうか。

十和田八幡平国立公園は十和田八甲田地域と八幡平地域から成る、山と湖と溪流があり、ブナ・ダケカンパ・ミズナラなどの森が豊かな国立公園です。2 つの火口湖を持ち、成層火山で知られ南方富士とも評される美しい岩手山には見る度に魅せられます。大規模な 3 回の噴火で形成されたカルデラ湖である十和田湖周辺には魅力と神秘がいっぱいです。

個人的な活動としては、十和田湖でカナディアンカヌーを、八幡平エリアで登山やスノーシューハイキングの活動を楽しんでいます。

十和田湖の湖岸沿いの木々を見上げながら漕ぐカヌー。青と碧と蒼の美しい水の色、緑や紅葉の美しい景色、蝉や鳥の音、大好きなカツラの葉などの植物の匂いは湖



（夏の十和田湖 カヌー）



（紅葉の三ッ石山）

上でのみの特別な体験です。どの山に登山しようかと思えるほど多くの山に登山できる楽しみはとっても幸せだと感じます。岩手山、三ッ石山、秋田駒ヶ岳、八幡平、鞍掛山、何度も登ってみたい素晴らしい山ばかりです。網張の森では夏も冬も毎回森に入るたびに発見があります。八幡平の池塘を臨む湿原歩きも気持ちがいいです。

県外出身で自然や国立公園の知識がなかった私にとって、自分が国立公園の中にいると実感するその瞬間は何年経っても特別な感情になります。自然豊かな環境を満喫できる十和田八幡平国立公園の魅力を伝え、パークボランティアとしての活動がこのエリアの一助となれば幸いです。



（冬の網張の森）

▲・▼ 環境省盛岡管理官事務所からのお知らせ ▼・▲

「盛岡管理官事務所」に着任しました

環境省 国立公園管理官 大音 周平 さん

7 月より盛岡管理官事務所に着任しました大音です。生まれは神奈川県藤沢市というところで、海沿い育ちですが、前任地の裏磐梯自然保護官事務所では家と事務所が標高 800m にあり、生活力が鍛えられました。

なお裏磐梯では国立公園管理やクマ対策、登山道整備などを担当していました。今は盛岡の中心部で働いており、同じ現地事務所でも環境がずいぶんと変わり、驚いているところです（おいしいお店がたくさんあって嬉しいです）。まだ不慣れな点も多いですが、地域の魅力を見つけ、一日も早く戦力になれるよう努めてまいります。趣味は野球、スキーです。管内でもスキーはたくさん滑りたいと思います。好きな生物は水生昆虫（カゲロウ、カワゲラ、トビケラ）です。時間があったら川や溪流にも入っていきたいところです。皆様、これからどうぞよろしくお願いいたします！



国立公園で楽しむ親子の自然体験

8/8「夏休み！親子で楽しむ だて先生の昆虫観察」



参加者が
見つけた昆
虫を丁寧に
解説してい
ただき、手
触りや匂い
など五感を
使って昆虫観察。講師より「昆虫の名
前も含め、解説を鵜呑みにせず自分で
調べることが大切」とのお話もありま
した。「知らない昆虫に出会えて良か
った」参加者感想より。総勢 28 名

8/23「草花があそび道具に变身！ ～いろんな草笛を奏でてみよう！」

ササやミズキ
の葉を使って遊
んだり、キジ笛
やイタドリ、茎
笛に挑戦。キャン
プ場ではリー
ド笛作りに挑戦し、音階を確認しなが
ら曲も演奏することができました。
「イタドリ1つであんなにいろいろで
きることが不思議。家でもやってみた
い」参加者感想より。総勢 21 名



8/1「よるの森をのぞいてみよう！ コウモリ調査体験と昆虫ライトトラップ」

前日からの雨の予報となっていたため、
残念ですが中止となりました。

9/12「おかわりしたくなる！ 炭火炊飯体験」



炭焼き人の
講師より炭の
話を伺ってか
ら薪割り、火
熾し、土鍋炊
飯、朴葉味噌作り等を体験。「炭は災
害時や社会情勢の変化にも強い」とい
うお話もありました。「炭でご飯を炊
くのは初めて。美味しく炊けて良かつ
た」参加者感想より。総勢 11 名

▲・▼ 依頼行事 ▼・▲

8/4 岩手県市町村職員健康福利機構 夏休み親子プラン「網張の森いきものアトリエ ～モモンガのくらしを知る夏～」

モモンガの生態
に関するクイズに
答えながら森を散
策しました。モモ
ンガを通じて森の
役割や循環について、楽しみながら学
びました。後半は採取した草花を使い
モモンガの暮らす森をイメージしたア
ート作品を制作しました。37 名参加



8/26 はやちね村民塾 「網張で楽しむ森の時間」



北上高地と奥羽山
脈の成り立ちや自然
の違い、網張の森の
植物や生きものなど
のお話をしながら森
を散策。参加者によるアフリカ発祥の
楽器アサラの演奏もあり、和やかな
時間を楽しみました。9 名参加

9/10～11 滝沢市立滝沢第二小学校 校外学習「岩手山と自然のめぐみ」

網張の森で見ら
れる生きものや植
物、森と私たちの
暮らしと係りなど
を学びました。ゲ
レンデからの眺望や薬師の泉の感触も
楽しみました。5 年生 2 クラス 77 名



インフォメーション

10/10(土) 市民火山教室

『鞍掛山の火山灰から知る

岩手火山の江戸時代の噴火-Part2』

9:30～14:30 たきざわ自然情報センター集合

講師:土井 宣夫 氏(岩手火山地質研究所所長)

定員:10 名 ※要事前予約

参加料:大人800円 小学生以下 400 円

共催:滝沢市・滝沢市山岳協会・

(一社)滝沢市観光物産協会

10/18(日) 十和田八幡平国立公園・八幡平地域指定70周年記念行事

『網張温泉トレッキングツアー』

10:00～12:00 網張ビジターセンター集合

定員:15 名 ※要事前予約

参加料:大人1,000円 小学生以下 600円(温泉入浴券込)

11/3(火・祝) 森のクラフト体験

『小アデカトラリィを作ろう！』

9:30～11:30 網張ビジターセンター集合

定員:7名 ※要事前予約

参加料:一人800円(材料費込)

岩手山「噴火警戒レベル1」に引き下げ

8月27日、岩手山の噴火警戒レベルが「2」
(火口周辺規制)から「1」(火山であることに留意)に
引き下げられました。当面の間、西側ルートの入山
規制は続けられ、登山道の安全確認後に一部を除い
て開放する見込みです。火山活動が活発な大地獄谷
周辺の登山道は立入禁止が継続され、七滝コースは
途中にある七滝まで入山可能になる見込みです。
最新情報を確認の上、安全に登山をお楽しみ下さい。

ービジターセンター企画展ー

9月1日(火)～9月25日(金)

アミハリ・バース原画展Ⅱ 「四季を彩る網張の野鳥たち」

網張で見られる野鳥の
水彩画 24 点を展示しま
す。情報誌「ニュースレ
ター」の連載で描いてき
た野鳥を四季の移ろいと
ともに紹介します。



9月26日(土)～10月31日(土)

主催:環境省 十和田八幡平国立公園管理官事務所
盛岡管理官事務所

「十和田八幡平国立公園 指定 90・70 周年記念写真展」

日々、公園の保護と利用に努め
る現地職員がこれまでの業務で撮
影した写真を展示。豊かな自然環
境に育まれた動植物、四季の変化
がありなす美しい景観を地域、公
園利用者の皆様へお届けします。



モモンガのつぶやき

網張ビジターセンターでは、開館時間中に、
「森のクラフト工房」という手作り体験を行って
います。1 回 200 円で、網張の森で集めた様々
な材料から、好きなものを 5 つ選び、「森の仲
間」を制作！完成したら、地元のボランティア
さんに作ってもらった、かわ
いミニ紙袋に入れて持ち帰
ることができます。

予約はいりませんのでぜひ、
一度お試しください♪(K.H)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 7月 1, 241人 ◆ 8月 1, 972人
朝9時のビジターセンター平均気温 ◆ 7月 16.5℃ ◆ 8月 16.7℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://amihari17.ec-net.jp>

E-mail amihari@vanilla.ocn.ne.jp

開館 夏期(4月から10月末まで)休館日なし9時～17時